

月刊

月刊 グラフィックサービス 令和8年9月10日発行(毎月1回発行) 通巻898号

グラフィックサービス

No.898
2026 9

GS



TAKANO Co. Ltd

株式会社高野高速印刷
代表取締役社長
高野 秀樹さん

2026年版 中小企業白書・ 小規模企業白書

巻頭言 人とのつながりを力に出会いと学び、その先へ
—— 一般社団法人日本グラフィックサービス工業会 本部理事 茨城県支部長 高野 秀樹

連載 松谷の突き抜ける!SPACE-21 「知る」から「動く」へ

PM取得企業紹介 PM企業クローズアップ
共立速記印刷株式会社 共立速記印刷個人情報保護委員会

会員企業紹介 キラ星ジャグリスト
—— 有限会社トヨープリント 代表取締役 前田 明

NEWSとお知らせ 会員事業者が加入対象となる、全国中小企業団体中央会サイバー保険制度のお知らせ
パートタイム・有期雇用労働者に関するルール変更のお知らせ

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



UD
FONT
by MORISAWA



- 1 ■巻頭言
人とのつながりを力に
出会いと学び、その先へ
一般社団法人日本グラフィックサービス工業会
本部理事 茨城県支部長 高野秀樹
- 2 ■令和8年熊本地震被災状況等について
危機管理委員会
- 3 ■巻頭企画
2026年版
中小企業白書・小規模企業白書
- 8 ■プライバシーマーク取得企業紹介
東京文京支部 共立速記印刷株式会社
共立速記印刷個人情報保護委員会
- 22 ■連載
松谷の突き抜ける！SPACE-21
「知る」から「動く」へ
- 24 ■会員企業紹介
キラ星ジャグリスト
——有限会社トーヨープリント 代表取締役 前田明

- NEWSとお知らせ
- 7 委員会報告
 - 10 ジャグラ新コンテスト検討ワーキンググループより
アンケートご協力のお願い
 - 11 会員事業者が加入対象となる、
全国中小企業団体中央会サイバー保険制度のお知らせ
 - 12 パートタイム・有期雇用労働者に関するルール変更のお知らせ
 - 19 アプリスタンプラリー
 - 20 ジャグラBBへGO！
 - 26 印刷屋さんのお仕事展4を開催
 - 28 業界の動き
千代田中央支部
支部合併の第一歩 支部ホームページを開設
岩手県支部
総会で記念講演 原田新会長が事業方針を発表
-
- 23 雑学コラム④
 - 29 事務局日誌と今後の予定
- 広告インデックス
- 13 富士フイルムグラフィックソリューションズ(株)
 - 14 (株)ショーワ
 - 15 ホリゾン・ジャパン(株)
 - 16 (株)モリサワ
 - 17 (株)モトヤ
 - 18 東京リスマチック(株)
 - 表4 リョービMHI グラフィックテクノロジー(株)

月刊グラフィックサービス 発行趣意

月刊『グラフィックサービス』は、一般社団法人日本グラフィックサービス工業会会員、関係諸団体およびすべてのステークホルダーの皆様へ、自社の質的向上に役立ち、知恵と勇気を分かち合うことを目指し発行するものです。本会の存在意義である人間交流スペースを構築し、社会の多様な要請にタイムリーに対応しつつ、共通の経営課題を持つ会員をネットワーク化し、その交流を積極的に支援するとともに小さいことでも有利となる経営施策も発信する情報ターミナルとなることを理想とします。またその情報発信手段は誌面にとどまらず、環境に応じて多様な発信方法を検討、遂行することを責務とします。

【概 要】		
発行回数	月1回/年間12回	配布方法
購読料	ジャグラ会員は無償(会費を含む) ・希望企業、団体への有償配布	・全会員へ直接郵送 ・ジャグラホームページからのダウンロード



本誌へのご意見・ご要望・記事提供は下記宛お寄せください
Eメール edit@jagra.or.jp 電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
お手紙 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 〒103-0001 (一社) 日本グラフィックサービス工業会 宛

■巻頭言

人とのつながりを力に 出会いと学び、その先へ

一般社団法人日本グラフィックサービス工業会

本部 理事
茨城県支部長 高野秀樹



Cover Person

本年5月より、茨城県支部長、そしてジャグラ理事を併せて拝命いたしました高野と申します。

茨城県支部長についてはいずれその役目を担う覚悟はしておりましたが、理事就任は6月のジャグラ本総会のわずか1週間前に打診を受け、しかも当日中の返答を求められるという、まさに電光石火の出来事でした。

凡庸な私がこれまで皆様のお役に立てるのかわかりませんが、皆様のお力をお借りしながら、ともに歩み、一つひとつの活動に誠実に取り組んでまいります。どうぞよろしく願っています。

私は昭和37年、水戸市で生まれ育ちました。水戸黄門や水戸納豆で知られるこの街は一年を通じて気候が穏やかで暮らしやすく、自宅近くには日本三名園の一つである偕楽園と千波湖があり、現在は健康維持を兼ねたウォーキングコースとして親しんでいます。

当社は昭和35年、父が茨城県庁を退職して創業した印刷会社で、本年創業66年を迎えます。父は令和3年に88歳で生涯

を閉じましたが、その生き方や考え方は今も私の支えとなっています。

父が印刷業を志したきっかけは、県庁在職中に茨城県職業訓練校(現・茨城県立産業技術専門学院)の印刷学科を担当したことでした。高度経済成長期を迎え、印刷業界の将来性を確信して独立を決心したと聞いています。創業当時は自宅兼工場で父と母が二人三脚で会社を築くその傍らで、私は段ボール箱の中で遊びながら育ちました。

私は大学在学中、当時日本で唯一の印刷後継者教育専門学校であった日本プリンティングアカデミーに入学し(第5期生)でマネジメントや印刷理論を学ぶとともに、印刷関連機械メーカーの研修施設で和文タイプ、写植機、製版機材、印刷機などの技術も経験しました。

卒業後は東京・錦糸町の印刷会社で営業と制作の両部門で実務を積みました。当時、その会社では電算写植システムを導入するとともに、独自の組版ソフトを開発し、PC9801を活用した効率的な組版を実現していました。優れた操作

性により短期間で習得でき、生産性を大きく向上させる先進的なシステムでした。

この経験を持ち帰り、当社が和文タイプから電算写植へ移行する際、父と相談して地方の印刷会社には大きな投資となる電算写植システムの導入を決定しました。その結果、オペレーター教育に要する期間の短縮と作業の標準化が進み生産能力が飛躍的に向上するとともに、高度な組版案件にも対応できるようになり、受注拡大と売上向上につながりました。

一方で父は会社経営だけでなく組合活動にも情熱を注いでいました。教員時代は茨城県教職員組合、その後は日経印(現ジャグラ)第23回総会で常任理事に就任し、全国組織委員長として全国各地を奔走し業界の発展に尽力していました。

父は「組合活動で得た人との出会いや経験が会社経営を大きく成長させてくれた」とよく話していました。私に繰り返し伝えていた言葉があります。

「みんなが賛同する気持ちが生まれたときに物事は動き出し、それが成功へと導く力となる。」

若い頃はその意味を十分理解できませんでしたが、今、自分が県支部長、そして理事という立場を担い、その重みを深く実感しています。

団体活動は一人の熱意だけで進むものではありません。「会をもっと良くしたい」という思いに、「私も協力します」「一緒にやりましょう」と仲間が賛同することと新たな事業や挑戦が生まれ、会は活性化します。組織を動かす原動力は、一人の力ではなく、共感し志をともにする仲間の力だと信じています。

月刊グラフィックサービス7月号で、原田会長が就任巻頭言に記された「新しい出会いを、新しい学びを、新しい仕事を、新しい挑戦を——『ジャグラから始めよう！』という言葉に深く共感しました。私もこの言葉を胸に、会員の皆様との交流を深め、新たな出会いを学びへ、学びを挑戦へ、そして挑戦を会員企業と会の持続的な発展へつなげてまいります。皆様とともに歩み、茨城県支部、そしてジャグラのさらなる発展に向けて微力ながら力を尽くしてまいります。」

「強い中小企業」への転換点 「稼ぐ力」の強化と取引適正化の新境地



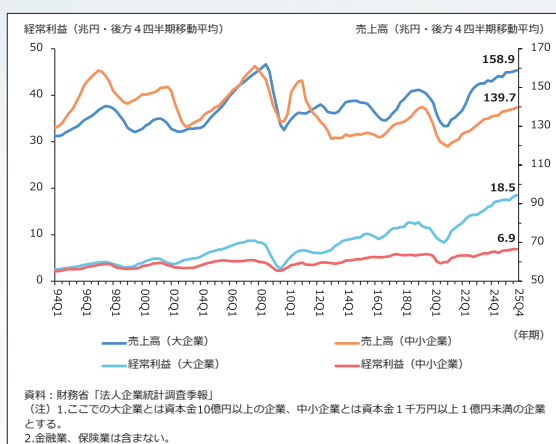
中小企業の業況判断D-1は、2023年第2四半期に1994年以降で最高水準を記録して以降、原材料高や人手不足を背景に足踏み状態が続いています。特に深刻なのは労働供給制約であり、2040年には中小企業の雇用者数が2018年比で最大16%減少するとの試算も出ています。この

「構造的な価格転嫁」への法整備

2026年4月、政府は「2026年版中小企業白書・小規模企業白書」を閣議決定し、公表しました。日本経済は現在、賃上げや国内投資が30年ぶりの高水準に達し、名目GDPが600兆円を超えるなど、デフレ脱却に向けた前向きな動きが鮮明になっています。しかし、中小企業を取り巻く環境は、生産年齢人口の減少に伴う労働供給制約社会の本格到来や、物価と賃金が共に上昇する「金利のある世界」への移行という、構造的な大きな転換期に直面しています。同白書は、こうした激変する環境下で、中小企業が現状維持のリスクを乗り越え、持続的な成長を実現するための「稼ぐ力」(付加価値を生み出す力)の強化に焦点を当てています。概要を紹介します。

令和8年1月、中小企業の価格交渉力を法的に支える「製造委託等に係る中小受託事業者に対する代金の支払の遅延等の防止に関する法律(取適法)」と、改正された「受託中小企業振興法(振興法)」が施行されました。今回の改正は、原材料費や労務費の上昇分を適切に転嫁できる「構造的な価格転嫁」

① 取適法・振興法の施行によるサブライチエーションの正



した中、賃上げ原資を確保しつつ成長投資を継続するためには、取引の適正化と適切な価格転嫁が不可欠な基盤となります。

令和8年熊本地震 被災状況等について 危機管理委員会

ジャグラ緊急連絡網

災害等の緊急事態が発生した時の手順

- 1 身の安全確保、緊急避難、二次被害防止、安否確認(社員・家族・来訪者)
- 2 本部より支部長へ被害状況確認の要請
- 3 会員から被害状況の連絡→支部長へ
- 4 支部長が担当支部の被害状況を集約
- 5 支部長による状況報告→地協会長へ
- 6 地協会長による状況報告→本部で集約

ジャグラ本部連絡先
Tel: 03-3667-2271
jagra@jagra.or.jp

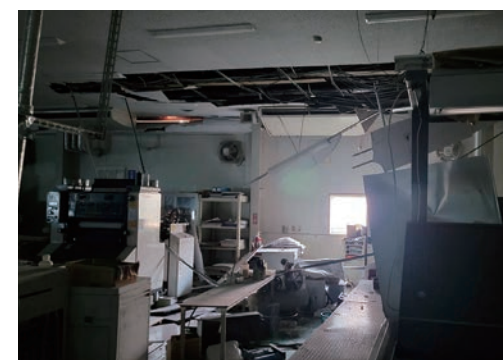
- ◎状況を見ながら連絡をするように心がけてください。支部の緊急連絡網やLINEグループなどを整備しましょう。
- ◎本部が被災した場合は、別の支部(①近畿地協/②北海道支部・地協/③中国地協/④九州地協)の順で、会長指示のもと本部代行として災害対策本部を設置します。
- ◎災害用伝言ダイヤル(171)、災害用伝言板サービス(各社携帯メニューから)なども活用してください。サービスにより、録音時間の制限や48時間で消去されるものがありますので複数の方法で対応するようにしてください。
- ◎万が一被災してしまった場合は、自治体ではボランティアなどの人的支援、救援物資輸送、災害復旧貸付け、債務返済緩和等の措置が取られます。

7月28日(火)に熊本地方で発生しました地震(令和8年熊本地震)で被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興、復旧を祈念申し上げます。

ジャグラ本部としては、地震発生を受け、九州地方協議会の土地協会長に会員の被災状況の確認を依頼するとともに、翌日、原田会長指示のもと、危機管理委員会を立ち上げました。

29日夜に高光熊本県支部長から連絡があり、29日時点での会員企業の被災状況を共有しました。30日には危機管理委員会を開催し、高光支部長からの被災状況報告から

- ・ 災害見舞金の支給
 - ・ 熊本県支部への義援金募集の開始
 - ・ 賛助会員への会員企業の復旧協力依頼
 - ・ 熊本県支部の今期、会費免除
- の4つの対策を決定しました。
- 【会員企業の被災状況】
- シモダ印刷(宇城市震源地)
 - ・ 建物半壊、天井落下
 - ホープ印刷
 - ・ 印刷機2台のズレ
 - 昭和印刷
 - ・ 本棚倒壊、製版機液漏れ
 - 高田商会
 - 大和印刷所
 - ・ 共に用紙や物の散乱はあったものの、



シモダ印刷(宇城市震源地)

機材等の被災は無し。幸いいずれも人的被害の報告はありませんでした。

の実現を目的としています。

主な改正ポイントは次の通りです。

【「下請」という用語の廃止と理念の転換】
発注者と受注者が対等な立場で共存共栄を目指す意識を高めるため、「下請事業者・親事業者」という従属的な表現を「中小受託事業者・委託事業者」に改め、法律名も変更されました。

【適用対象の拡大】

「従業員数による基準（300人、役員提供は100人）」が新設され、これまで法の網の目から漏れていた事業者も保護対象に含まれるようになります。また、物流課題への対応として「特定運送委託」が対象取引に追加されました。

【禁止行為の追加（取適法）】

物価上昇局面において、適切な協議を行わずに取引価格を据え置く「協議に応じない一方的な代金決定」が明確に禁止行為となりました。さらに、受託側の資金繰り負担を軽減するため、紙の約束手形等による支払も禁止されました。

【面的執行と勧奨の強化】

事業所管省庁に指導・助言権限を付与し、状況が改善されない委託事業者に対しては、主務大臣が具体的措置を示して改善を促す「勧奨」制度が新設されました。

② 官公需における価格転嫁・取引適正化の徹底

民間における適正取引を先導するため、政府は国や地方公共団体が行う物品調達や公共工事、すなわち「官公需」における価格転嫁を徹底しています。令和6年度の官公需総実績額は約30.2兆円に達しており、地域経済に与える影響は極めて甚大です。

政府は「国等の契約の基本方針」を閣議決定し、次の措置を講じています。

【定期的な価格協議の義務化】

複数年度にわたる契約において、少なくとも年1回以上の価格協議を行うよう努めることを要請しています。

【誠実な交渉対応】

受注側から価格交渉の申し出があった際、「予算がない」「前例がない」といった理由で拒否することを禁じ、誠実に対応することを求めています。

【施策パッケージの策定】

最低賃金の上昇やエネルギー価格の高騰を予算単価に反映させるほか、有資格者の実態に見合った「公共工事設計労務単価」の設定など、包括的な支援を行っています。

【地方公共団体との連携】

令和7年11月には全国知事会で「行動宣言」が採択されるなど、地方自治体においても率先して価格交渉・転嫁策

を進める動きが全国に広がっています。

中小企業の「稼ぐ力」強化へ

白書では、労働投入量の減少が避けられない中で付加価値を維持・増加させるためには、「労働生産性（付加価値額÷従業員数）」の向上が唯一の解決策であると定義しています。中小企業であっても、労働生産性の上位層は大企業の中央値を超える水準にあり、「稼ぐ力」を磨くことで大企業と遜色ない競争力を持つことが可能です。

① 研究開発と知的財産の権利化による高付加価値化

付加価値を最大化する「分子の拡大」において、研究開発（R&D）は中長期的な成長を牽引する重要な要素です。データによると、研究開発を継続している企業は、実施していない企業に比べて付加価値額を大きく伸ばしており、特に実施後数年を経てその差が顕著になります。

特に本白書で強調されているのが、「知的財産の権利化」の重要性です。

【権利化による付加価値創出】

自社の技術やノウハウを特許権・実用新案権・意匠権・商標権として権利

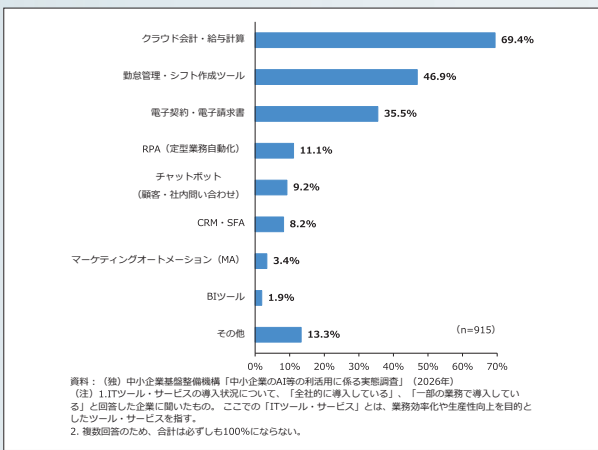
【省力化投資の実態】

省力化を目的としたAI活用は、すでに中小企業の約3割で進んでおり、主な目的は「業務時間の節減（8割超）」や「人手不足の解消」です。具体的な活用方法としては、文書作成・要約、RPAによる業務自動化、プログラミング支援、顧客対応などが挙げられます。

【成功の鍵は教育と連携】

AIやITツールの導入で、従業員向けの研修や勉強会を併せて実施している企業や、営業と製造など「部門間連携」を実現している企業は、想定以上の導入効果を得ている割合が非常に高いことが分かりました。

【中小企業が導入しているITツール・サービス



化している（又は出願中である）事業者は、権利化していない事業者に比べて、付加価値創出に「効果があった」と実感する割合が顕著に高いことが示されています。

【外部連携の活用】

自社単独での開発に限界がある場合、他の中小企業や大学、公的研究機関と連携することが有効です。連携先を持つ企業は、技術力や専門人材の補充に加え、販路拡大や社会的信頼の向上といった副次的な効果も得ており、結果として高い付加価値創出を実現しています。

② 「経営リテラシー」と原価管理の高度化

価格転嫁を成功させ、収益力を高めるための土台となるのが、経営者や従業員の「経営リテラシー」です。

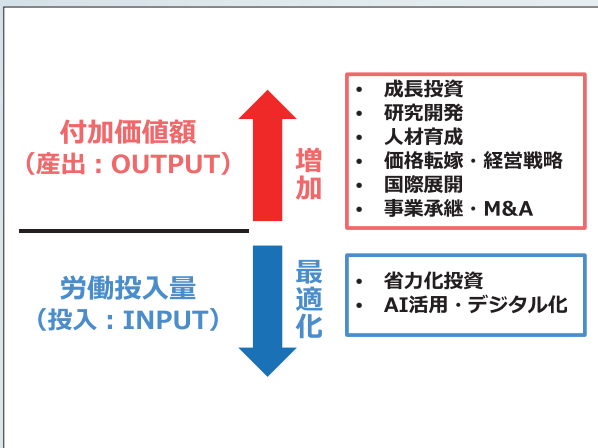
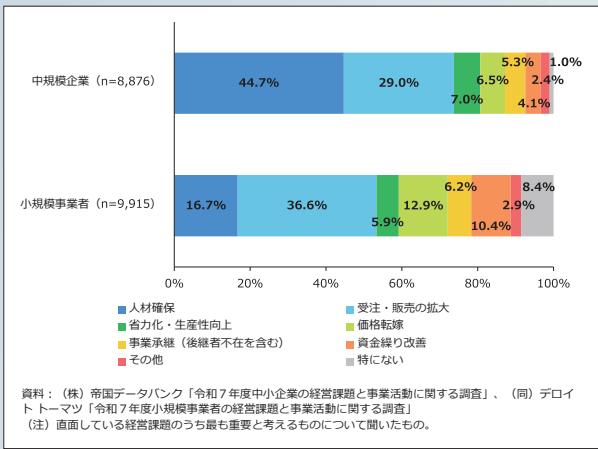
【詳細な原価把握】

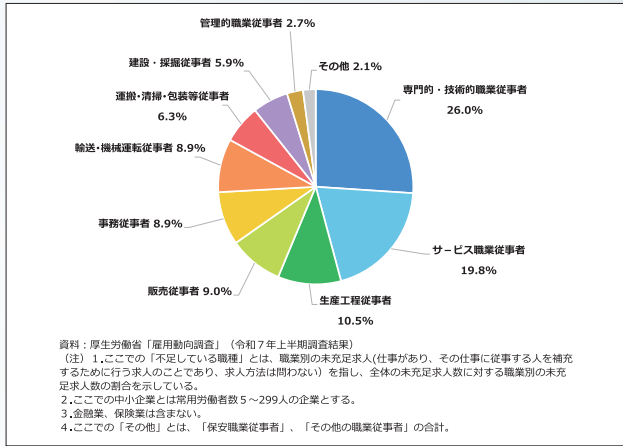
原価を「製品・商品・サービス単位」で詳細に把握している企業ほど、価格転嫁率が高い傾向にあります。単に全社単位で数字を見るのではなく、個別の採算を可視化することで、根拠に基づいた価格交渉が可能になります。この辺の原価管理の考え方については、ジャグラが発行した「単品損益管理の教科書」をご覧ください。

人材確保・活用と事業承継で経営変革

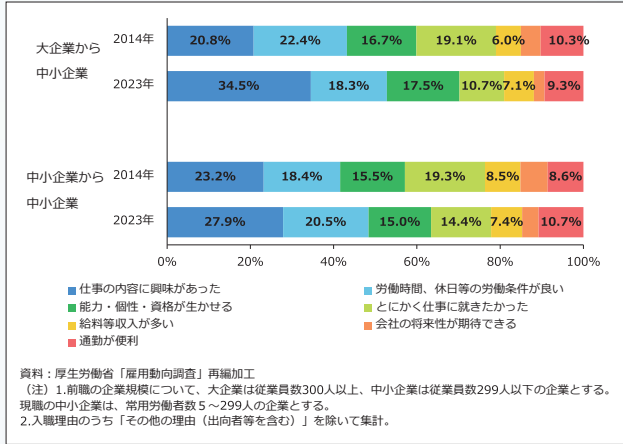
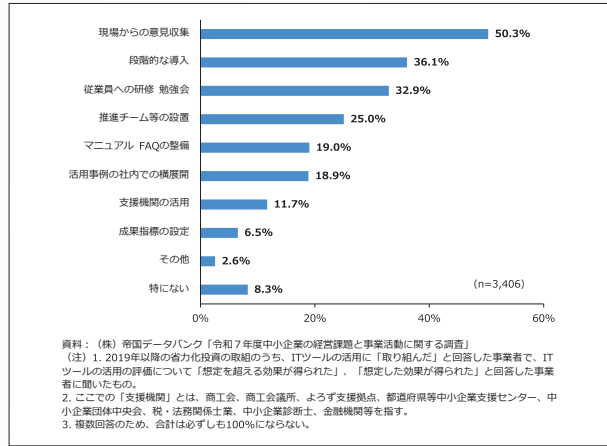
労働供給制約社会では、人材は「コスト」ではなく、企業の競争力を生む「資本」です。

中小企業への入職者の約7割は転職者（中途採用）であり、彼らが企業を選ぶ理由として「仕事の内容への興味」が急速に高まっています。そこで求めるスキルや価値観といった「人材像」を明確にしている企業は、採用目標の達成率が高いだけでなく、入社後の定着率も顕著に高いことが示されています。また、外部の専門知識を取り入れるための「副業・兼業人材」や、海外展開の鍵となる「高度外国人材」の活用が進んでいます。特に副業・兼業人材は、人手不足の解消だけでなく、自社にない技術やノウハウの獲得に大きな効果を発揮しています。

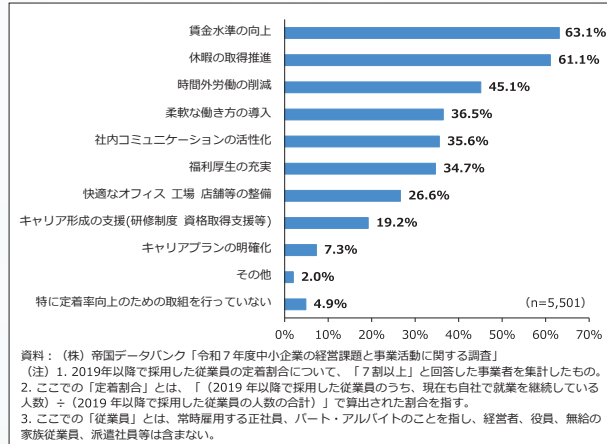




【ツール活用の効果を高めるために有効だった取組】



【人材定着率が高い中小企業が定着率向上のために取り組んだこと】



委員会報告

新連載「委員会報告」は、ジャグラの各委員会が順番で担当し、それぞれの活動状況や事業内容、今後の活動方針などを会員の皆様へ紹介していく企画です。第1回目は「会員拡大委員会」より、新体制の本格始動に向けた方針とこれからの具体的な取り組みについて報告します。

会員拡大委員会

「超・印刷」で新領域を仲間に

～1支部1社増からはじまるジャグラの未来～

先日開催された委員会では、「委員会」は直接勧誘するチームではなく、地協や支部が動きやすくなるよう、後ろから支えるお手伝い役」という方針を再確認しました。

■現状把握とアイデアの共有

会員数において、「1つの支部で1社以上、全国で70社の純増」を目指します。毎月入退会の動きを確認し、「なぜ入会

今期より会員拡大委員会の委員長を務めさせていただくこととなりました。各地協会長をはじめとする委員の皆様とともに、現場を支える体制づくりに努めてまいります。

ジャグラの最大の強みは、何よりも「全国の会員同士が本音でつながり、高め合える温かさ」にあります。新しい仲間を迎えることは決して容易ではありません

会員拡大委員会

委員長	中村 盟	副会長	NS印刷製本(株)
委員	藤田 靖	北海道	(株)プリプレス・センター
	後藤 卓也	東北	中央印刷(株)
	露木 貴弘	関東	(株)スクラム
	松谷 勝広	東京	(株)松谷メールサービス
	中原 佳子	東海	ブラザー印刷(株)
	丸山 恵慈	北陸	(有)めぐみ工房
	作本 卓也	近畿	富士高速印刷(株)
	藤沢 忍	中国	(有)藤沢印刷
	森 孝	四国	(株)松栄印刷所
	近森 純一郎	四国	(有)近森謄写堂
	土 慶一郎	九州	(有)アート印刷



中村盟委員長

■みんなで輪を広げよう

デジタル化などの変化が進む中、ジャグラがこれからも成長し、会員の皆さまに役立つ組織であり続けるためには、新しい仲間を迎えることが大切です。ただ人数を増やすだけでなく、印刷の枠を超えた新しい分野の仲間も巻き込み、お互いの困りごとを解決できるつながりを作っていきます。

新体制スタート

中村盟新委員長のもと、主に地協会長が新たな委員会メンバーとして参画する新体制となりました。これにより、2025年度の全国協議会で各地協が掲げた目標と行動計画の実行力を高める体制が整いました。

また、SPACE21の代表幹事や各地の若手メンバーに加わり、世代を超えた連携による会員拡大に取り組んでいきます。

先日開催された委員会では、「委員会

したか」「なぜ退会したか」の理由も丁寧にヒアリングし、分析します。そこから、うまくいった工夫やアプローチ方法を全国で共有し、無理なく取り組める仕組みを作ります。

各地での取り組みとこれから

各地のイベントでは、地元の支部と協力し、ジャグラの魅力をアピールします。

また、地域ごとにカスタマイズ可能な「ジャグラPR名刺」や、ジャグラでできることをまとめた「お品書き」など、使いやすいツールの作成を計画しています。

さらに、会員企業の後継者がジャグラ

中村委員長より

今期より会員拡大委員会の委員長を務めさせていただくこととなりました。各地協会長をはじめとする委員の皆様とともに、現場を支える体制づくりに努めてまいります。

ジャグラの最大の強みは、何よりも「全

働きやすい環境を整え、意欲ある若手への事業承継や外部人材の活用を通じて、組織の活力を維持し続けること。中小企業は日本経済の基盤であり、その一社一社がリスクを恐れず大胆かつ長期的な「戦略」を持った経営へと転換していくことが、日本経済全体の持続的な発展につながる唯一の道です。本日書の知見を自社の未来を切り拓くための羅針盤として、ぜひご活用ください。

【2026年版中小企業白書・小規模企業白書】中小企業庁ウェブサイト：
<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2026/PDF/chusho.html>

が、仲間が増えることで新しい仕事のつながりが生まれ、経営の悩みを共有できる場が広がるという確かなメリットがあります。全国の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、共に新しいジャグラの未来を創り上げていきましょう。

東京文京支部

共立速記印刷株式会社

共立速記印刷個人情報保護委員会



共立速記印刷個人情報保護委員会メンバー

① はじめに

共立速記印刷株式会社は、1947年（昭和22年）の創立以来、「正確かつ迅速な情報の伝達」を大切に、「お客様の情報伝達をお手伝いする」ことを使命として歩んできました。おかげさまで、来年には創立80周年を迎えます。

創業当初の速記事業から始まり、時代の変化に合わせて、印刷・DTPを中心とした印刷物の企画・制作へと事業を拡大してきました。現在ではさらに、Webサイトや動画の制作、各種イベント・学会運営のサポートなど、情報発信に関わる幅広いサービスを展開し、お客様の課題解決に向けて紙媒体の枠を超えた取り組みを進めています。

官公庁や地方自治体、大学・学会、各種団体、民間企業など、幅広いお客様とお取引引きする中で、印刷物の制作や議事録作成、データ処理などを通じ、機密性の高い情報や多くの個人情報をお預かりしています。そのため、情報を安全かつ適切に管理することは、お客様との信頼関係を支える重要な責務であると考えています。

今回は、こうした取り組みの一つである「プライバシーマーク」の取得と、その後の運用について紹介します。

② Pマーク取得の経緯

弊社では、ISO（国際標準化機構）のマネジメントシステム規格が世界的に注目を集めていた1990年代後半の流れを受け、他社との差別化およびお客様へのサービス品質向上を目的として、2001年よりISO9001（品質マネジメントシステム）取得に向けた取り組みを開始しました。翌2002年には同認証を取得し、続く2003年にはISO14001（環境マネジメントシステム）の取得へと動き、2004年に認証を取得しました。

そのような折、2004年前半に国内の大手企業において大規模な個人情報流出事故が相次いで発生しました。社会全体で個人情報保護への関心が急速に高まる中、お客様からの信頼をさらに強固なものにするための「次なるステップ」として弊社が選んだのが、プライバシーマークの取得でした。



取得に向けた委員会活動の様子



取得当時の社内教育の様子

③ Pマーク取得のメリット

Pマークを取得した当初は、Pマークの保有が条件となっている入札案件などはありませんでしたが、16年前に弊社へ入社して当時の経緯を知った際、情報も少ない20年も前に外部の支援を受けず、手探りで認証取得まで辿り着いたプロジェクトメンバーの熱意と行動力には、ただただ、驚嘆させられました。

私自身、前職でISO関連業務や各種法定検査といったマネジメントシステムの運営に携わってききましたが、16年前に弊社へ入社して当時の経緯を知った際、情報も少ない20年も前に外部の支援を受けず、手探りで認証取得まで辿り着いたプロジェクトメンバーの熱意と行動力には、ただただ、驚嘆させられました。

2004年末には、取得に向けた社内プロジェクト委員会を発足させました。ISO取得時には外部コンサルタントの支援を仰ぎましたが、すでに二つの認証取得で培った経験があったことから、プライバシーマークについてはコンサルタントを入れず、自社主導で取得を目指す方針を固めました。

具体的には、弊社のプロジェクトリーダーとグループ会社の社員2名が専門機関のセミナーを受講し、そこで得た知見を社内でのプロジェクト委員会へと展開し、自らの手で必要な体制構築や規程類の整備を推し進めました。その結果、2005年末の審査を経て、翌2006年に弊社およびグループ会社の2社揃ってプライバシーマークを取得することができました。

Pマークを取得した当初は、Pマークの保有が条件となっている入札案件など

を中心に、印刷物制作のご依頼を獲得する機会が増えていきました。その後は印刷物の制作にとどまらず、完成した印刷物の発送やアンケートの集計、その印刷物を使用するイベントの運営補助など、印刷に付随する周辺業務についても「Pマークを取得している企業なら安心できる」という信頼から、幅広くお任せいただけるようになりました。

現在では、営業担当者がお客様から「Pマークを持っているから」という選定理由を直接耳にする機会は、むしろ以前ほど多くはありません。それだけ、個人情報を取り扱う業務においてPマークの取得が当たり前の「前提条件」として社会に定着したのだと感じています。

そのような環境の中で、印刷を起点としながらその前後にある多様な業務まで安心してお任せいただけることは、弊社の事業展開における大きな強みとなっています。

④ Pマークは、単なる仕組み、されど仕組み

Pマークの運用は全社で取り組んでいますが、その中心を担っているのが、各部署から選出されたメンバーで構成する個人情報保護委員会です。

弊社ではPマークを取得してから20年にわたり運用を続けています。長く運用

を続けているからこそ、決められた手順を確実に実施できるようになる一方で、いつの間にか「やるべきこと（手段）」をこなすこと自体が「目的」にすり替わってしまう課題が生じることもありました。その結果、本来の個人情報保護の意義や目的意識について、委員会の中心メンバーと一般社員との間に温度差が生まれる場面もありました。

そこで弊社では、毎月の全社員朝礼で個人情報保護方針を唱和し、基本的な考え方を継続して共有しています。また、内部監査時のトップインタビュアーでは、私自身が考える個人情報保護の必要性や重要性を委員会メンバーに直接伝え、その内容を全社員へ展開してもらっています。さらに、委員会メンバーも定期的に入れ替えることで、より多くの社員が当事者として運用に関わる機会をつくっています。

その中で繰り返し伝えているのが、Pマークの目的は単に規程やルールを守ることではなく、「あなた自身を含めたすべてのステークホルダーを守るため」であるということです。

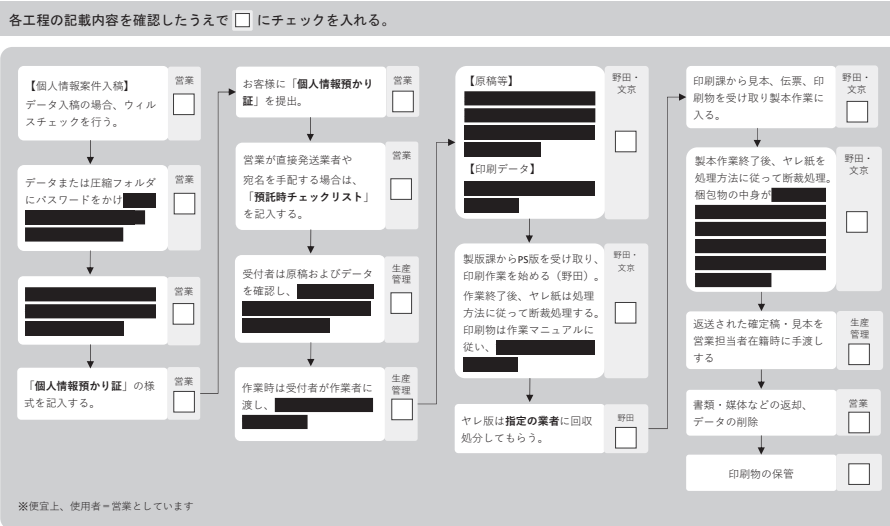
Pマークは、あくまでも個人情報を守るための「仕組み」に過ぎません。しかし、その仕組みを形骸化させず、社員一人ひとりが目的を理解し、より良く、意識的に回していくこそが何より大切だと感じています。

最近では、委員会からの自主的な提



Pマーク委員会の現在の風景

個人情報案件の流れ ※お客様機密情報などにも適用
受注番号： 担当：



共立個人情報取り扱いフローチャート

ジャグラー新コンテスト検討ワーキンググループより アンケートご協力をお願い

アンケート回答用二次元コード↓



会員の皆さま。長年にわたり多くの会員企業様にご参加いただいた「年賀状コンテスト」は、13年間にわたる十二支のデザイン提供という責務を全うし、社会情勢の変化に伴い、このたび終了することとなりました。

これまで長きにわたるご愛顧とご協力に、心より感謝申し上げます。

これを受け、ジャグラーでは現在、「会員企業の皆さまの実利に繋がり、社員のモチベーションUPや社内活性化に貢献する」新たな「次世代型コンテスト」の創設に向け、ワーキンググループ（WG）を発足し検討をスタートしています！

「自社ならどんなコンテストに参加したいか」「若手社員がチャレンジできるテーマは何か」など、皆さまの「リアルな声」を反映させた魅力的な企画にするため、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せください。

皆さまの一声が、これからのジャグラーの新しい名物企画を作ります。業界をさらに盛り上げる「次世代型コンテスト」を、ぜひ一緒に創り上げていきましょう！ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご報告

大阪大会でのアンケート＆ プレゼント当選者発表!

先日開催された「第68回ジャグラー文化典大阪大会」にて「足早く先行アンケートを実施し、多くの皆さまにご回答いただきました。温かいご協力を誠にありがとうございました！」大会会場では、WEB回答促進企画として第61回定時総会にちなみ、61番目に回答された方へ大阪名物のお菓子をプレゼントいたしました。ご当選されたのは・・・

トリプルA 山本一幸様(広島県支部)



山本様、
おめでとうございます!

アンケート結果報告

回答数：87件（実質83社、うち4社は2回答）

Q1. 興味のあるコンテスト案（複数選択）

順位	コンテスト案	割合
1位タイ	AI活用コンテスト（生成AI等の活用成果を競う）	64%
1位タイ	ビジネスアイデア系コンテスト（新サービス・地域課題解決）	64%
3位	業務改善コンテスト（生産性向上・コスト削減）	47%
4位	技術・デザイン系コンテスト	29%
5位	学生連携型コンテスト	28%
6位	グリーティングカード／表紙デザインコンテスト	22%
7位	ロゴデザインコンテスト	20%

→「AI活用」「ビジネスアイデア」が同率トップ。

Q3. コンテストへの期待（複数選択）

順位	期待すること	割合
1位	会員企業同士の技術・ノウハウ共有	63%
2位	AIスキルの習得・リテラシー向上	49%
3位	若手社員のモチベーションアップ	46%
4位	対外的なPR（クライアントへのアピール）	29%
5位	受賞作品のテンプレ・フォーマット共有	28%

→「競う」ことより「学び合い・人材育成」への期待が高い。

Q4. AI活用について（重点調査）

順位	選択肢	割合
1位	AI活用の業務効率化事例発表（レポート形式）	60%
2位	AIプロンプトの工夫や精度を競う	37%
3位	AIを一部使用したデザイン作品の応募	33%
4位	まずはAI活用の講習会から始めてほしい	31%

→「競う」ことより「学び合い・人材育成」への期待が高い。

自由記述回答より（一部抜粋）

- ・新規事業・協業・経営系のアイデアが29件中13件と最多
- ・「テンプレートを使ってシンプルに参加できる設計を」
- ・「世代による関心差を踏まえ、初級→上級のステップ形式に」
- ・「AIの可能性は無限。団体・業界として先進的に取り組むべき」

会員事業者が加入対象となる、 全国中小企業団体中央会サイバー保険制度のお知らせ

国立研究開発法人情報通信研究機構「NICTER観測レポート2024」によると、NICTが運用している大規模サイバー攻撃観測網（NICTER）のダークネット観測で確認された2024年の総観測パケット数（約6,862億パケット）と、2015年（約632億パケット）と比較して10.86倍となっています。警視庁が今年3月に発表した「令和7年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」でも令和7年のランサムウェア被害件数が226件と増加傾向にあります。

巧妙化するサイバー攻撃、ネット犯罪は大企業のみならず、中小企業もターゲットとなっており、事業継続の上でこうしたネットワークセキュリティ対策が大きな課題となっています。

こうした状況を背景に全国中小企業団体中央会は加盟団体の会員企業向けのサイバー保険制度を提供しています。

同保険は費用・賠償・利益・資金の4つの損害を補償する商品です。

取扱保険会社はあいおいニッセイ同和

損保、東京海上日動、損保ジャパン、三井住友海上の4社です。
今回は、あいおいニッセイ同和損保の商品をご紹介します。

◆ベーシックプラン

●費用損害

対象事由 「他人の情報の漏えいまたはそのおそれ」「IT事故（ユーザー危険）」
対象となる損害 （支払い対象となる費用）
①事故対応費用、②事故原因・被害範囲調査費用、③広告宣伝活動費用、④法律相談費用、⑤コンサルティング費用、⑥見舞金・見舞品購入費用

●賠償損害

対象事由 「他人の情報の漏えいまたはそのおそれ」「IT事故（ユーザー危険）」
対象となる損害 ①法律上の損害賠償金、②争訟費用、③協力費用、④権利保全行使費用、⑤訴訟対応費用

◆ワイドプラン

●費用損害

対象事由 ベーシックプランに加えて「サイバー攻撃に起因する対人・対物事故」「サイバー攻撃※記名被保険者のコンピュータシステムに対するサイバー攻撃」
対象損害 ベーシックプランに加えて①クレジット情報モニタリング費用、②公的調査等対応費用、③コンピュータシステム等復旧費用、④風評被害拡大防止費用、⑤再発防止費用、⑥サイバー攻撃調査費用

●賠償損害

対象事由 ベーシックプランに加えて「サイバー攻撃に起因する対人・対物事故」
対象となる損害 ベーシックプランに加えて①緊急措置費用、②損害防止費用、③オプショで利益損害補償特約、IT業務特約、資金損害補償特約、情報漏え

い限定補償特約^{※イ}、サイバー攻撃補償特約^{※イ}があります。
※1ベーシックプランのみセット可能

◆参考費用（あくまでも参考値です）

年間売上高3億円の印刷会社で、ベーシックプラン13万6,900円、ワイドプラン15万7,370円（※告知事項申告書（リスクヒアリングシート）の告知事項②が「いいえ」、告知事項③が全て「はい」となる企業を想定）

このご案内は概要を説明したものです。ご契約にあたっては、必ず「サイバーセキュリティ保険パンフレット」および「重要事項のご説明契約概要のご説明・注意喚起情報のご説明」をあわせてご覧ください。詳しくは、「普通保険約款・特約集」をご用意しておりますので、取扱代理店または、あいおいニッセイ同和損保までご請求ください。ご不明な点につきましても同様にお問い合わせください。
（2026年8月承認）B26-200730

パートタイム・有期雇用労働者に関する ルール変更のお知らせ

パートタイム・有期雇用労働者の待遇改善を進めるため、「同一労働同一賃金」に関する施行規則と告示が改正されました。（令和8年10月1日施行）

今回の改正のポイントは

- ①雇入れ時の労働条件明示事項の追加
- ②「同一労働同一賃金ガイドライン」の改正
- ③雇用管理の改善等に関する措置の内容変更

です。

①雇入れ時の労働条件明示事項の追加

10月1日以降、パートタイム・有期雇用労働者を雇い入れた時の労働条件明示事項として、現行の明示事項に加え、新たに「待遇の相違の内容・理由等に関する説明を求めることができる」旨の明示

が必要となります（違反した者は10万円以下の過料に処されます）。

待遇の相違とは、正社員との給与、賞与支給ルールの違いについての説明などを労働者が求めることができ、これに对应する必要があります。（パート・有期雇用からはNG）

②「同一労働同一賃金ガイドライン」の改正

パートタイム・有期雇用労働法では、同一企業内の正社員とパートタイム・有期雇用労働者との間で、待遇（基本給や各種手当、福利厚生など）について不合理な差を設けることを禁止しています。ガイドラインはどのような待遇差が不合理なのかについて、考え方や具体例などが示されています。今回の改訂で、賞与（記載の充実）、退職手当（新規追加）、無事故手当（新規追加）、家族手当（新

規追加）、住宅手当（新規追加）、福利厚生施設（記載の充実）、病気休暇（記載の充実）、夏季冬季休暇（新規追加）、褒賞（新規追加）の内容が追加されています。

③雇用管理の改善等に関する措置の内容変更

パートタイム・有期雇用労働法では、正社員とパート・有期雇用労働者との間で待遇差がある場合、事業主は、パートタイム・有期雇用労働者から求めがあらば、①待遇差の内容や理由、②法第6条から第13条までの措置を講じるに当たって考慮した事項を説明しなければなりません。説明に当たっては、次の点に留意する必要があります。

「資料を活用し、口頭により説明する方法」または「説明すべき事項を全て記載した分かりやすい内容の資料を交付す

る等の方法のいずれかにより説明する。

「資料を活用し、口頭により説明する方法」による場合には、説明に活用した資料等を交付することが望ましいです。

資料を交付することが困難な場合であっても、事後に求めがあったときは当該資料を閲覧させる等の工夫をするよう努める。

【同一労働同一賃金ガイドライン】

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000190591.html>

【改正後のモデル労働条件通知書】

<https://www.mhlw.go.jp/content/11650000/000815925.pdf>

「印刷品質」に関する課題を共に解決し、 生産効率の最大化を目指す トータルソリューション。

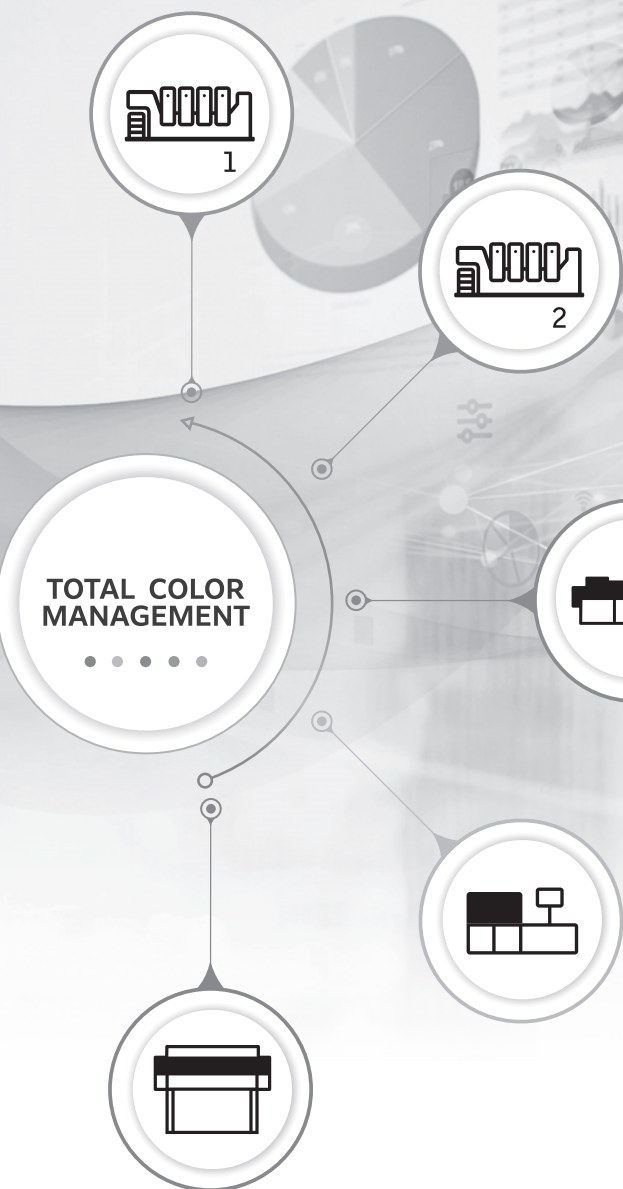
さまざまなジョブをつねに最適なコスト・時間で生産するには、工程全体の品質の統一と安定化が必要です。すなわち、「オフセット印刷・デジタル印刷の印刷品質が統一され、安定した状態」。この理想的な生産環境の実現に向け、富士フイルムは、長年にわたる印刷診断活動で得たデータや、独自の知見・ノウハウを活かし、お客さまの生産設備に合わせた課題解決から、色品質の維持管理まで、ワンストップでサポートいたします。

印刷品質管理ソリューション

FFGS QC Navi

富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社

FUJIFILM
Value from Innovation



完全予約制

本展示会は入場無料の登録制になります。
詳細情報はイベントサイトをご覧ください。



www.horizon.co.jp/ja/exhibition/2026/hsf_2026/

Horizon
Change the focus

Horizon Smart Factory 2026 in HIP

無人化との共存

FIRST TOUCH

[For Japan Days] 国内プログラム期間

28^{WED} – 30^{FRI}
Oct. 2026
10:00 – 17:00

株式会社ホリゾン 本社びわこ工場内 Horizon Innovation Park
(滋賀県高島市新旭町旭1600)

2026年のホリゾンスmartファクトリーイベントでは、「無人化との共存」をテーマに、自動化を目指す世界を、広い範囲で捉え皆様に提案します。

本イベントでは、印刷・後加工・梱包・運搬の全工程で実現された無人システムをさらにブラッシュアップ。自律走行搬送ロボットを用いた工程間搬送の完全自動化、ティーチングレスロボットやスマートグラスを活用した作業支援など、人とテクノロジーがシームレスに共存する未来のワークスタイルを提示します。

「無人化との共存」、どこを無人化し、何を人の役割として考えるのか？未来に向けたファクトリーオートメーションの世界を Horizon Innovation Park でご体感ください。

主催：ホリゾン・ジャパン株式会社 / ホリゾン・インターナショナル株式会社 / 株式会社ホリゾン

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ダックエンジニアリング株式会社 / 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社
ハイデルベルグ・ジャパン株式会社 / 株式会社 日本 HP / 株式会社 JSPIRITS / コニカミノルタジャパン株式会社
京セラドキュメントソリューションズ株式会社 / 株式会社ミヤコシ / リコージャパン株式会社 / 理想科学工業株式会社
リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社 / 株式会社 SCREEN グラフィックソリューションズ

協力：株式会社バリューマシーンインターナショナル

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本社	〒101-0031	東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F	TEL.03-3863-5361(代)	FAX.03-3863-5360
東京支社	〒132-8562	東京都江戸川区松江5丁目10-9	TEL.03-3652-7631(代)	FAX.03-3652-8083
京都支社	〒601-8206	京都府京都市南区久世大藪町510	TEL.075-933-3060(代)	FAX.075-933-4025
福岡営業所	〒813-0034	福岡県福岡市東区多の津4-12-17	TEL.092-626-8111(代)	FAX.092-626-8112
仙台サービスセンター	〒984-0002	宮城県仙台市若林区卸町東1-7-31	TEL.022-782-2821(代)	FAX.022-782-3068



ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。

創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション & リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

○研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
○会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで

SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目7番8号 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149

イメージキャラクター
琴音 愛

印刷業界の 明るい未来を お客様と共に。

当社は社会と産業の基盤を支える企業活動を通じて、環境と調和し活力ある社会の実現に貢献することを目指します。

業務最適化ソリューション

印刷工程管理ソフト PRINT MANAGER



PRINT
MANAGER
Business e-Brain
印刷業務・経営支援パッケージ

販売開始以来、200 社以上の導入実績を誇る印刷工程管理ソフトウェア。受注から納品、請求までの情報を視覚化し、一元管理することで、経営状況を一目で把握可能にします。生産性や利益率の向上を実現する印刷業のトータルサポートシステムです。

詳細は
こちら▶



自動化・省力化のご提案



生産現場をはじめとして、印刷業界でも大きな課題となっている人手不足に対応するため、ロボット導入による自動化・省力化についてパレタイザーやロボットアームなど自動化を実現する最新機器をご紹介します、貴社に最適な活用方法をご提案いたします。

パレタイザーの
詳細はこちら▶



印刷業界の人材採用をお考えの企業様
◇社員紹介 ◇紹介予定派遣 ◇人材派遣 ◇業務委託などのご相談は…
モトヤ キャリアエージェント部へ
大阪 ☎(06)6358-9124 / 東京 ☎(03)3523-8719
人材派遣業 派 27-030254 / 人材紹介業 27-0-030174



株式会社
モトヤ

印刷のソリューションプロバイダー

大阪 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-8 ☎(06)6358-9131(代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-5 ☎(03)3523-8711(代)
横浜・千葉・名古屋・京都・神戸・姫路・福岡

字 字 在 由

文字とつながる。
世界がひろがる。



Morisawa Fonts

デスクトップフォント

8書体まで利用可能 24書体まで利用可能 上限なく書体を選択可能
Select8 Select24 スタンダードプラン

Webフォント

サイト規模やプロジェクト数などに合わせて選べるプラン
Webフォント / Webフォント Lite / Webフォント Pro



morisawafonts.com

ジャグリスト スタンプGET JaGraアプリ & 新GS連動企画 デジタル STAGE 3 スタンプラリー

SCAN ME

Scan me!
9月のスタンプ
はこちら!

スマホカメラからではなく
JaGraアプリを立ち上げて読み込みください

参加方法

スタンプが **4** 個 (7~10月号) 貯まったら、そのまま抽選エントリーが自動完了!

Step.1
今月のGSを手元に
用意する!

Step.2
JaGraアプリの「スタンプ
ラリー」を立ち上げる。

Step.3
アプリ「スタンプを押す」から
上記二次元コードを読み込む。

Step.4
スタンプが付いたら
完了! 来月もGET!

抽選発表
抽選結果はGSにて発表!

7月号から10月号までの4ヶ月間、月刊GSと公式アプリが連動したデジタルスタンプラリー企画を開催します。毎月、誌面に掲載される二次元コードをJaGraアプリから読み取ると、スタンプを1つずつ集めることができます。4個(4ヶ月)スタンプを集めるとそのまま抽選エントリー完了です。遡っての取得もOK! 素敵な賞品が抽選で当たります。当選者の発表は11月号に掲載予定しておりますので毎月のお楽しみとしてぜひご参加ください。



主催：広報委員会



会社名+氏名

PRINTING

東京リスマチック株式会社は、印刷を軸に、企画・制作、製造・セットアップ、そして在庫保管から配送まで、全ての領域を網羅するワンストップサービスをご提供いたします。



東京リスマチック株式会社

総合サポート窓口
プリントデスク
0120-269-132
E-mail: support@lithmatic.co.jp

受付時間 月～金 9:00～17:00(祝日を除く)
※受付時間外については翌朝営業日のご案内となります。
お急ぎの場合は営業中の店舗に直接お問い合わせください。



Lithmatic
https://www.lithmatic.net



委員が選ぶ 今月のおすすめ番組

今月のカテゴリ：セミナー

委員が1カテゴリずつ“イチ推し”を持ち寄る本コーナー。
今月は「セミナー」から、経営者にも実務者にも響く2本を、
委員の声とともにお届けします。

おすすめ1

地域と共に生きるビジネスモデル 「サステイナブルセミナー」

推薦：東海林正豊 委員（秋田／株式会社東海林印刷）
カテゴリ：セミナー

デザイン会社の「イケイケ社長」が直面した苦難と、そこから這い上がるきっかけになった「新業態」への挑戦。大阪・堺のまちを盛り上げる紙力フェなど、地元愛あふれる取り組みが次々に登場します。二人の経営者がざっくばらんに語る実践のリアルが、とにかく面白い一本です。



おすすめ2

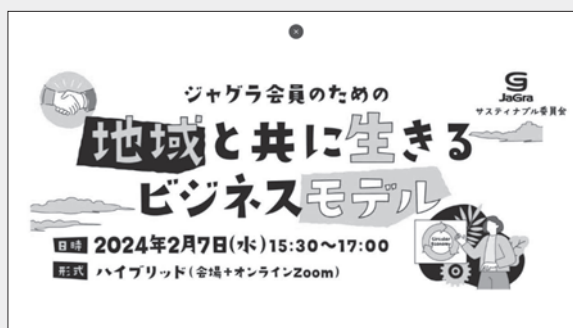
知って備える事業承継セミナー！！ ～事業承継の準備と相続税増税～

推薦：瀬尾 淳 委員（広島／株式会社広瀬印刷）
カテゴリ：セミナー

事業承継を考えることは、企業を活性化させるための「原点」——経営者の年齢は関係ありません。承継を入り口に自社を見つめ直すことで、これまで気づかなかった課題が見えてくる。相続税増税を見据えた実務の備えも押さえられる、いま向き合っておきたい一本です。



知って備える事業承継セミナー!!
- 事業承継の準備と相続税増税 -
- 事業承継の準備と相続税増税 -
知って備える事業承継セミナー!!



▶ アクセスは「ジャグラBB」で検索、または各番組の2次元コードから。

次号（10月号）のおすすめカテゴリは「BB ネットワーク」。
会員が投稿した“ワザ”や動画をご紹介します。

データで見るジャグラBB

会員は「いつ・どこで」 BBを見ている？

—— データで探る“活用のリアル” ——

これまで人気番組を紹介してきた本コーナー。今回は角度を変えて、
ジャグラBBが“どう使われているか”を視聴データから見てみます。
見えてきたのは、BBが「平日の仕事の合間に、PCで見る学びツール」として
根づいている姿でした。

いつ見られている？

- **時間帯**：午後2～4時台がいちばんのピーク。会議の前後や仕事の合間に見られています。午前8～11時台にも山があり、始業後の“ひと区切り”に視聴する会員も多いようです。
- **曜日**：火曜・水曜を中心とした平日が中心。週の前半に学ぶ習慣がうかがえます。

どこで・どう見ている？

- **端末**：PCが約9割（PC 447回：スマホ・タブレット 39回）。ひとりで見るだけでなく、社内での集合視聴や研修での活用がうかがえます。

今日から使える3つのヒント

- 1 朝礼・昼礼のあとの15分で、チームそろって1本。
- 2 PCを大画面につないで、社内研修の“教材”に。
- 3 新人・若手のOJTに、テーマ別の番組を“宿題”として。

【参考：4～6月よく見られた番組 TOP3】

順位	番組名	視聴回数
1	信頼設計ビジネスマナー基本研修 2026年版(前・後・完結編)	57
2	【アーカイブス】第25回 伸び行く軽印刷展 -ニーズに応えて、今キラキラ	37
3	宮城県支部セミナー「生成AI時代の印刷会社の戦略」	25

【番組アクセス数の推移】

月	番組視聴数	登録者数
4月	140	1,205
5月	102	1,206
6月	244	1,210
7月	★	★

登録者数は6月末で1,210名。着実に増えていますが、まだ見えていない会員へ広げる余地は大きいところです。



野口 聡の

雑学コラム

45

コラム：47都道府県の話（その43：山形県）

ジャグラ会報をご覧の皆様、こん〇〇は。ジャグラ東京・東グラ文京支部のアクティブ・野口です。

今回の話は山形県。かのアメリカ大統領も尊敬の念を抱いていたという一人の偉人のお話でも書いていこうと思います。少しの間お付き合いください。

封建時代の風情を今もなお色濃く残す米沢。置賜（おきたま・おいたま）地方の中心地として明治時代に日本で初めて「市」に指定された31の地域の一つ（同県では山形とこだけ）でもあります。そんな米沢を江戸時代城下町として治めていたのが上杉家の皆様。元々戦国の時代は伊達家の城下町であり、その後秀吉の命で蒲生氏郷が治め、のちに上杉景勝が越後からやってきます、その景勝に臣下としてこの地を与えられ指揮を執ったのが「愛」の兜でお馴染みの直江兼続であり、戦国時代の終わり、関ヶ原の戦いで西軍についた上杉家は敗戦の将として徳川家康に許されはしたもののほぼ全ての領地（約90万石）を没収され、結果米沢30万石を与えられ米沢藩として江戸の世を過ごすことになります。その後色々あって米沢藩は城主の放蕩がたたって財政が悪化しいよいよ滅亡の危機まで見えてくるというとてもない状況になります。ここで9代目の当主として登場したのが現在でも「鷹山公」と呼ばれ尊敬の念を集めている上杉治憲（鷹山）です。

財政建て直しの為に本人自ら質素倹約を徹底し、産業振興を行い、

当時閉鎖されていた藩校・興譲館を復活させて武士・農民の身分なく勉学させたと言われています。この時代に天明の大飢饉が発生しましたが鷹山は非常食の普及や倹約を指導し被害を抑えたとも言われています。

私が鷹山公と聞いて思い浮かぶのは「為せば成る、為さねばならぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけり」の一句。これは鷹山が隠居して次の藩主に家督を譲る際に詠んだと言われており、自分から動いて改革を成し遂げた鷹山の人が観える気がします。

もう1つ思い浮かぶのは第35代アメリカ大統領ジョン・F・ケネディが鷹山公を「日本で1番尊敬する人物」と答えたという話。キリスト教思想家として知られる内村鑑三の著書「代表的日本人」を読んだケネディがその中で取り上げられた鷹山公の話に感銘を受け、インタビューで上記の様に答えた、と云う内容なのですが現在でもインタビューが公式には残っていないのが本当に言ったかどうか疑問視されています。しかしながらケネディが鷹山の事を全く知らなかったかと思うとそうでもないようで、現在でも市内にはケネディの娘でありかつて駐日大使であったキャロラインが訪れた際に行ったスピーチが彫られた記念碑が立ってるそう。今度見に行ってみよう。

さて、今回のお話はここまでです。お付き合いありがとうございました。では今月の問題です。

問題 昨年JRの最東端の駅が変わったことがごく一部の方々の中で有名になりましたが最西端の駅はしばらく変わっていません。「JR最西端の駅」の碑が設置されているその駅はどこでしょう？

（正解は29ページ）

松谷の

突き抜ける！SPACE-21

| 連 | 載 |

SPACE-21

幹事
藤本 隆志

（株）東洋ビジネス／
広島 楓翠会



「知る」から「動く」へ —SPACE-21夏の幹事会に参加して—

皆様、はじめまして。このたびSPACE-21幹事を引き継ぎました藤本隆志です。まだ就任したばかりで、SPACE-21の活動や幹事としての役割を学んでいる最中ですが、7月4日（土）、ジャグラ会館8階で開催された夏の幹事会に参加しました。

今回の幹事会は、「深く知ること全員がベクトルを合わせる」を大きなテーマに、幹事一人ひとりの思いや各地青年会の現状を共有し、SPACE-21が何を担う集団なのかを改めて考える場として開かれました。

その前日の7月3日（金）には、SPACE-21に加盟する東京グラフィックサービス工業会青年部[FACE]のワークショップにも参加しました。

テーマは、「利益とは何か」「自分たちの時間がどのようにお金へ変わっているのか」をリアルに理解することです。参加者同士で考え、手を動かす中で、利益は単に売上の先に残るものではなく、一人ひとりの時間や工夫、チームの連携によって生み出されるものだと思えました。楽しさの中に学びがあり、学んだことを自社へ持ち帰る。FACEの活動は、翌日の幹事会とSPACE-21の役割を考えるうえでも、大きなヒントになりました。

幹事会では、松谷代表幹事から、SPACE-21の最大の目標は「各地青年会の活性化」であり、幹事それぞれがお客様気分を脱却し、失敗を恐れず「0から1」を踏み出してほしいという方針が示されました。正副代表からも、代表一人に負担を集中させず皆で組織をつくること、地域や会社の垣根を越えたネットワークを築くこと、活動を各地青年会の会員まで分かりやすく伝えることの重要性が語られました。続いて、各幹事が地元青年会の現状と、SPACE-21に期待する役割を発表しました。私の動きとしては、グループ「E」で楓翠会のメンバーに案内しても反応が薄いことがある一方、工場見学のお知らせには確かな手応えがあったことを報告しました。主催する側が「やりたいこと」を用意するだけではなく、参加する人が何を求めているのかを捉え、ニーズに合った活動を組み立てることが必要だと感じています。また、幹事会に向けて事前に話し合われていた「幹事の役割と信頼構築」という視点も印象に残りました。当日、瀬尾監事から、役職のプレッシャーを取り除いたフラットな場づくりの経験が共有されました。全体協議でも、参加者から意見を引き出しながら議論が整理されていく様子に、その役割が表れていたように思います。

グループディスカッションを通じて見えてきたのは、SPACE-21には「心のつながり」と「ビジネスのメリット」の両方が必要だということです。

経営や現場の悩みを本音で話せる仲間をつくるだけでなく、「この会社なら安心して仕事を頼める」という信頼関係へ発展させていくこと。さらに、各地青年会の後継者や次世代リーダーを育てることが、組織の活性化を図る大切な指標であることも確認されました。

幹事会の最後には、「総務」「ネットワーク」「広報」の三つのワーキンググループについてメンバーを公募し、それぞれバランスよくメンバーが振り分けられ実務が動き出すのだと思います。松谷代表幹事の「失敗してもよいので、まずやってみよう」という呼びかけは一番印象に

残っています。就任したばかりの私だからこそ、初めてSPACE-21に携わる視線を忘れずにいたいと思います。また、幹事だけで活動を完結させず、各地青年会の皆さんに「参加してみたい」「自社や地域に持ち帰れるものがある」と感じてもらえるよう、活動の目的や魅力を丁寧に伝えていきたいと思っています。

最後に、夏の幹事会で得た熱量を最初の一步に変え、私自身も「0から1」を踏み出してまいります。



Kenbisha を“見て・触って・試せる”イベントスペース

1 スマホへカードタッチ
秒で溢れ出る情報へ

ニ アニマル
ピコタッチ

Hit & Blow がパーティー
ゲームになって超進化！
カードとアプリでゲームが遊ぶ
現代型のデジタルゲーム！

NFC×カード×人×交流=∞

The CORNER
Produced by Kenbisha

ジャグリストの皆さん！是非お気軽に
東京八丁堀へお立ち寄りください！

キラ星 ジャグリスト

大阪府支部

有限会社トーヨープリント 代表取締役 前田 明

所在地 大阪府守口市大宮通 4-10-3



母の和文タイプから始まった、 町の印刷会社のシステムづくり

当社は昭和56年、大阪府守口市で設立しました。始まりは、母が自宅で行っていた和文タイプの内職です。そこから仕事の幅が広がり、謄写版印刷機、ピンクマスター印刷機を導入し、印刷会社として歩み始めました。

現在は、オンデマンド印刷機による小ロットの印刷物を中心に、お客様の要望に合わせた製品づくりをお手伝いしています。単に印刷するだけではなく、「このような物を作れないか」というご相談を伺い、用途や予算に応じて形にしていることを大切にしています。

当社と業務システムとの関わりは、今が初めてではありません。二〇〇〇年以前、当社ではワープロを使った文字物の仕事が多く、十人を超える入力の内職スタッフに仕事をお願いしていました。それぞれの仕事内容や作業量を管理し、得意先への納品書を作成する作業は大き

な負担でした。

そこで、データベースソフト「dBASE」を基にした、当時「SPRINT」と呼ばれていた印刷会社向けシステムを、数百万円をかけて当社用にカスタマイズしました。

仕組みの中心に置いたのは、「一度入力した情報を、次の仕事にも生かす」という考え方です。入力スタッフが自分の行った作業を登録すると、それが本人の作業伝票になると同時に、当社から得意先へ発行する納品書の基礎データにもなります。いま振り返ると、現在でいう業務データの一元化を、当時から目指していたことになりました。

その後、二〇〇〇年問題への対応を機に、Microsoft Access 97をベースにしたシステムへ作り替えました。このシステムは現在もWindows XPのパソコン上で稼働しています。しかし、古いパソコンはいづ故障してもおかしくありま

せん。交換部品も少なく、壊れてからは業務を継続できないという不安が、年々大きくなっていました。

そこで今回、これまでの業務の考え方を受け継ぎながら、ブラウザ上で動く新しい伝票システムの開発に着手しました。見積書、納品書、請求書の作成だけでなく、得意先管理、仕入・原価、入金、月締め請求など、小規模印刷会社の日常業務を一つにつなぐことを目指しています。現在は当社内で実際の業務に使用し、現場で必要になった機能を少しずつ追加しています。

大きなシステム会社が作ったものではなく、小さな印刷会社が自分たちの仕事を止めないために始めたシステムづくりです。同じように、古い業務システムや伝票管理に悩んでおられる会員企業の皆様と、今後、経験や意見を交換できればと考えています。

【システム名】

現場とつながるクラウド伝票システム
「爆速伝票デンプICKス」

【特徴】

印刷業特化の「転記ゼロ・1秒複写」

過去伝票を1秒で検索しワンクリック複写。見積↓納品↓請求を1データでシームレスに発行・管理。

明細積み上げ&原価・利益の自動計算

工程・材料・外注費を明細ごとに積み上げ、顧客には見せない原価・利益率を自動算出。赤字案件を未然に防止。

明細単位の納期管理&アラート

1伝票内の明細ごとに納期を設定可能。今日・明日の納品予定がダッシュボードに自動表示され、伝え漏れを撲滅。

【目玉機能】

自社専用伝票・請求書の

「下絵PDFオーバーレイ印字」

現在お使いの専用用紙（A4はもちろん、長3封筒に収まる菊判8切など）のPDFを下絵として取り込み、WEB画面上で印字位置を微調整。既存の伝票用紙や指定請求書を無駄にせずそのままクラウド化できます。

【価格帯（予定）】

梅（無料プラン）：永久無料（月10枚まで・お試し用）

竹（小規模プラン）：年額49,800円（月換算約4,150円）

松（本格導入プラン）：年額98,000円（月換算約8,160円）

【ジャグラー会員様限定】

先行導入モニター特別枠（先着5社）

最上位「松プラン」を初年度モニター特別価格：年額29,800円（月換算約2,480円）にてご提供

※自社伝票（A4・菊8切等）の下絵PDF位置調整・初期導入サポート付き。

※現在、現場の声をもとに最終調整（細かな改善・機能追加）を推進中！モニター企業様の帳票要望や「ここを直してほしい」というご意見を最優先で反映・アップデートいたします。

【導入の流れ】

1. WEBで即時デモ体験：下記URLより実際の操作感をお試しください。けます。
2. 現場ヒアリング&個別調整：御社の伝票仕様に合わせた印字位置調整や、「ここ使いたい」「ここを追加してほしい」といった機能要望を直接伺い、システムへ反映します。
3. 本番運用スタート：現場にフィットした状態でお引渡しいたします。

【お問い合わせ・無料デモ体験】

運営・開発：有限会社トーヨープリント
（担当：前田）

デモサイトURL：

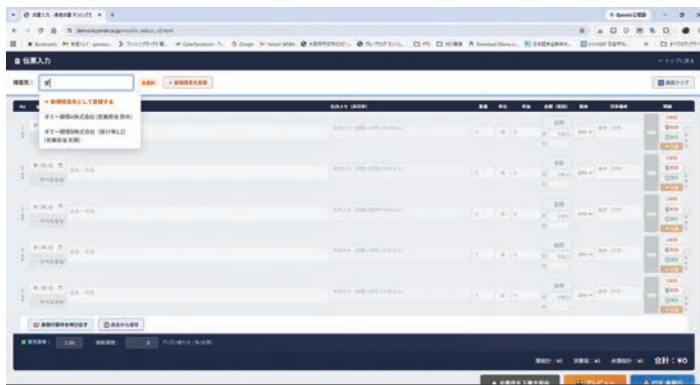
<https://denpyx.toyonet.co.jp/>

（ログイン情報：会社「demo」／

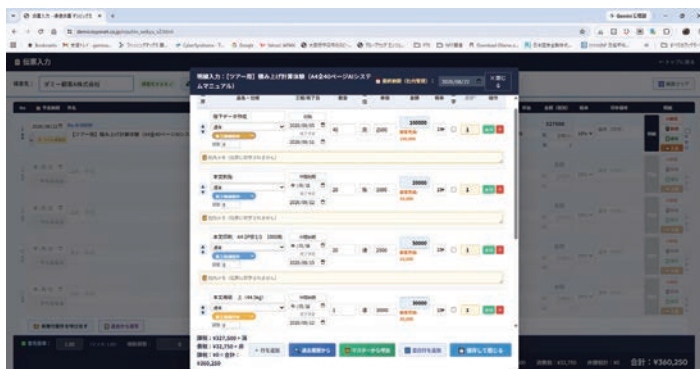
パスワード「demo2026secure」

E-mail: akira@toyonet.co.jp

TEL: 06-6668-8787



デモ画面①



デモ画面②

いん さつ や INSATSU ARTWORK
印刷屋さんのお仕事展4



今年も好評価バッジ製作

1階の地域活動スタジオでは、来場者が紙や印刷の仕組みに直接触れられる体験型のアトラクションを複数用意しました。

自分で描いたイラストをその場でプレスして缶バッジにする定番の「缶バッジ制作体験」のほか、カラフルなシロップを用いて印刷の基本であるCMYK（シアン・マゼンタ・イエロー・キープレート）の4色インクの重なりを表現した「フ

ンキードリンク」を提供しました。当日は作品展委員会メンバーがスタッフとして常駐し、比重の違いを生かしてドリンクの色の層をグラデーション状に重ね合わせながら、色の仕組みを視覚的に伝えました。

また、昨年大好評だった「紙つり放題」のコーナーでは、多種多様な色や厚さの残紙を用意しました。これは会員企業から募った残紙を有効利用するSDGsへの取り組みとしての側面も持たせています。子どもたちは、釣り竿の先についたマグネットを使い、ザラザラとした手触りや厚み・重さの違いを体感しながら、お気に入りの紙を釣り上げて楽しんでいました。

さらに、新企画として用意した「孔版スタンプづくり」や「和綴じ体験」も行い、委員会メンバーの手ほどきのもと、子どもだけでなく大人も一緒に楽しんでいました。

そして、今回も「ジャグラー作品展」の受賞作品を展示しました。実際に手で触れてもらうというコンセプトのもと、ユニークな形状の商品や書籍など、多数の優れた作品に自由に触れられる状態で並べました。来場者は実際に作品を手に取り、様々な印刷物に高い関心を寄せていました。

この「印刷屋さんのお仕事展」の目的は、子どもたちに印刷やものづくりを直接体験してもらうことを通じて、将来の印刷業界を支える「未来のグラフィックサービス業の担い手」を育成するきっかけをつくることです。未来の印刷人を育てるための大切なアプローチとして、今後もこの活動を継続し、技術やものづくりの楽しさをつなげていきたいと思っています。また、各支部や地協の活性化策として、地方開催に関するご相談やご質問も歓迎しております。

最後に、酷暑の中を会場へ足をお運びいただいた皆様、事前の準備から当日の熱心な運営まで、お仕事展の成功に向けて多大なるご尽力・ご協力をいただきましたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



ファンキードリンクも大好評！



残紙の紙釣り

印刷屋さんのお仕事展4を ～次代を担う「未来の印刷人」の育成に向けて～ 開催



和やかにガリ版体験

ジャグラー作品展委員会が毎年中心となって企画・運営している「印刷屋さんのお仕事展4」が、2026年8月2日（日）と3日（月）の2日間、東京・晴海の晴海地域交流センター「はるみらい」で開催されました。厳しい暑さの中での開催となりましたが、親子連れを中心に今年も多く地域の住民の皆様にご来場いただきました。

今年も初日には「親子で学ぼうガリ版体験教室」を実施し、参加者は神奈川県支部の皆様から丁寧な手ほどきを受けながら、鉄筆を用いて口ウ原紙に文字やイラストを刻む作業に取り組みました。子どもだけでなく大人も真剣な面持ちで作業を進め、インクをローラーで刷り上げる工程まで一連のプロセスを体験しました。今回もジャグラー神奈川支部の皆様には、事前の準備から当日の指導まで多大なるご協力をいただきました。誠にありがとうございました。



ガリ版体験教室



作品展示コーナー



「和綴じ」を教える谷山さん

月刊『グラフィックサービス』898号

■発行日 令和8年9月10日（毎月1回）
 ■発行人 原田 大輔
 ■編集人 東海林 正豊
 ■発行所

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
 電話 03-3667-2271 ファクス 03-3661-9006
 ウェブ <https://www.jagra.or.jp/>


 ジャグラは一般財団法人日本情報
 経済社会推進協会指定のプライバシー
 マーク指定審査機関です

■編集部宛メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

担当理事

戸来 一裕 岩手/（株）興版社

委員長

東海林正豊 秋田/（株）東海林印刷

委員

佐藤 愛子 大分/（株）クリエイツ

谷山 和也 東京/ 菁文堂（株）

野口 聡 東京/ アクティブ

三宮 健司 高知/（有）三宮印刷

吉田 一城 東京/（株）文洋社

小澤孝一郎 山梨/（株）オズプリンティング

西谷 毅 東京/ 西谷印刷（株）

藤本 隆志 広島/（株）東洋ビジネス

井上 貴寛 福島/（有）三共印刷所

西岡 佐記 東京/（株）研美社

松谷 勝広 東京/（株）松谷メールサービス

◎原稿・編集・校正

田中 良平 阿部奈津子 長野末奈美

笠原賢一郎 賀山 良枝

以上、ジャグラ事務局

◎渉外 田中 良平

◎広告 田中 良平

◎Web 阿部奈津子

◎動画 笠原賢一郎

◎組版（株）文洋社（東京支部）

DTP = Adobe CC ほか

フォント = モリサワ OTF / モリサワ BIZ+ ほか


 ※本誌の一部にユニバーサルデザインフォント
 を使用しています

◎製版 / 印刷（有）西村謄写堂（高知県支部）

RIP = FUJIFILM WORKFLOW xmf

CTP = Luxel T-6300（自現：富士フィルム XP-1310R）

刷版 = FUJIFILM SURERIA XP-F

印刷機 = RYOBI 924D

インキ = 東洋インキ

用紙 = 三菱ニューVマットA判 57.5kg

Copyright 2026 JaGra

禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です

原則、TMや®マークは省略しています

※乱丁/落丁本はお取り替えいたします。

【雑学コラムお題の答え】 佐世保駅（長崎県）

事務局日誌と今後の予定

最新情報はHPでご確認ください

■8月の事務局日誌

- 2日 印刷屋さんのお仕事展（1日目）（はるみらい）
- 3日 印刷屋さんのお仕事展（2日目）（はるみらい）
印刷技術委員会（Web会議）
- 5日 第2回広報委員会（Web会議）
- 6日 Pマーク現地審査（愛知）→笠原
SPACE-21 幹事会（Web会議）
新コンテスト検討WG（Web会議）
- 7日 Pマーク現地審査（愛知）→笠原
- 19日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会（本部）
DTPスキルコンテスト委員会（Web会議）
- 24日 新コンテスト検討WG（Web会議）
- 25日 新潟大会実行委員会（新潟）→田中専務
- 26日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
- 27日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
- 28日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
- 31日 Pマーク現地審査（長野）→長野
教育研修支援委員会（Web会議）

■9月のスケジュール

- 1日 Pマーク現地審査（長野）→長野
広報委員会（Web会議）
- 2日 HOPE2026（アクセスサッポロ）（1日目）→原田会長、田中専務、笠原
- 3日 HOPE2026（アクセスサッポロ）（2日目）→田中専務、笠原
- 4日 自費出版文化賞最終選考会（吉祥寺東急REIホテル）→原田会長、田中専務
- 7日 正副会長会議（Web会議）
- 8日 会員拡大委員会（Web会議）
- 9日 理事会（本部）
日印産連9月印刷の月（ホテルニューオータニ東京）
- 10日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
印刷技術委員会（Web会議）
- 11日 熊本県支部訪問→原田会長、田中専務
Pマーク現地審査（大阪）→笠原
- 14日 Pマーク現地審査（東京）→田中専務
- 15日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
- 16日 Pマーク現地審査（大阪）→田中専務
DTPスキルコンテスト委員会（Web会議）
- 17日 日印産連環境顕彰制度WG→田中専務
作品展委員会（Web会議）
- 18日 近畿地協勉強会（兵庫）→田中専務
- 24日 新コンテストWG（Web会議）
- 25日 Pマーク現地審査（神奈川）→長野
業態進化委員会（Web会議）
- 30日 Pマーク審査会・個人情報保護委員会（本部）

■10月のスケジュール

- 5日 SPACE-21 幹事会（Web会議）
- 7日 日印産連ステコミ→原田会長、田中専務
- 14日 日印産連GP大賞表彰式
- 15日 全日本印刷文化典（沖縄）（1日目）→原田会長
- 16日 全日本印刷文化典（沖縄）（2日目）→原田会長
- 17日 全日本印刷文化典（沖縄）（3日目）→原田会長
ぼうさいこくたい2026in鳥取（鳥取）（1日目）
- 18日 ぼうさいこくたい2026in鳥取（鳥取）（2日目）
正副会長会議（本部）
新年度事業方針発表会（本部）
賛助会員懇談会

事・務・局・便・り

一向に衰えない暑さに、夏が好きな私も、いい加減暑さに飽きてきた今日この頃です。皆様、体調など崩されていませんか。

電気代が非常に気になるので、夜、「タイマーにすれば大丈夫だろう」と1時間でエアコンが切れるようセットして寝るのですが、切れた途端にじわじわと迫る熱気に目が覚め、暗闇の中でリモコンを探してスイッチを入れ直す……そんな不毛な夜を繰り返す毎日です。朝を迎える頃には「最初から朝までつけておけばよかった」と後悔してしまいます。

心地よい「秋の夜長」が訪れるのは、もう少し先になりそうですね。もうしばらく厳しい残暑が続くそうですので、皆様も無理をなさらず、しっかり睡眠をとって健やかにお過ごしください。（笠原）

※「事務局便り」は本部事務局員が交替で執筆しています

NEWS 業界の動き

業界の動き

千代田中央支部

支部合併の第一歩 支部ホームページを開設

今年4月に誕生した千代田中央支部では、合併後の新たなスタートの第一歩として、支部ホームページを開設しました。

「どんな支部なのか」「どんな活動をしているのか」を会員の皆さまはもちろん、これから入会を考えている方にも分かりやすく伝えたい——金子初代支部長の思いから制作したものです。制作は支部



千代田中央支部HPチラシ



千代田中央支部ホームページ
<https://www.tokyographics.or.jp/branch/tgchiyodachuo/>

会員である〇〇の伯野氏が担当。支部内のつながりを生かした取り組みとして実現しました。

ホームページでは、支部役員の紹介や年間事業計画、例会・見学会・懇親会などの活動報告に加え、今後の開催予定も随時発信しています。支部の雰囲気や取り組みをタイムリーに届けることで、会員同士の交流を深めるとともに、新しい仲間との出会いにもつながればと考えています。

情報発信も支部活動の大切な一つ。ホームページを通じて、千代田中央支部の魅力を少しずつ発信していきますので、ぜひ一度ご覧ください。

岩手県支部

総会で記念講演 原田新会長が事業方針を発表

2026年7月24日（金）盛岡市のアートホテル盛岡にて第72回定時総会・記念講演会・懇親会を開催しました。

定時総会に原田新会長と後藤東北地協会長をお招きし、全ての議案が悉く議決・承認され、主賓支部長2期目の新たなスタートとなり、終了後に後藤東北地協会長より総評を賜りました。記念講演会は原田新会長が講師となって「ジャグラからはじめよう新年度事業方針」と題して新体制や新事業に対する熱意と充実した内容で、支部会員に語りかける熱い想いを拝聴しました。続けて懇親会には会員他、ご来賓、関連業様併せて27名にご参加を賜り、主賓支部長の主催者挨拶の後、主賓挨拶として原田新会長より勇気付けられる励ましのお言葉を頂戴し、新年度の支部としての活動に大いに弾みがつきました。盛岡市市会議員 村田 芳三様による乾杯のあと、相互に交流と親睦



岩手県支部総会

を深めました。物足りなかったのと新会長との絆をより一層深めるべく、支部会員数名参加で二次会から三次会まで流れて盛り上がり、締めには盛岡名物三大麺の一つ「盛岡じゃじゃめん」を食べ、新会長に盛岡の夜を大いに満喫していただきました。

RMGT-CSPI

ともに創る印刷の未来



RMGT-CSPIが
SDGs達成をアシスト

印刷会社のSDGs達成のためのソリューションを提案、具現化するRMGT-CSPI。
各分野の企業が連携し、お客さまに寄り添いながら課題を解決・サポートします。

